特別支援学校の魅力ある授業づくり

「教師と子どもが紡ぐ特別支援学校の授業」

「授業」は、教える場面を幅広く包括している言葉です。学校生活の中では、頻繁に使っています。一般的には、教師が子どもに教材を通して、一定の知識や技術を習得させること、といわれますが、これだけでは、学ぶ意欲や、教師や友達とのやり取りが浮かび上がってきません。そこで、次の言葉を付け加えてみました。

「授業は、子どもの持っている力を引き出す教育活動である。」

特別支援教育では、子どもの環境や障害に応じた配慮をし、子どもを主体とした授業を組織することで、子どもの奥深くにある力を引き出す努力をしています。この配慮こそが、特別支援教育の授業の専門性です。

授業の中で、子どもが学習する場面では、大切なことが二つあります。一つは、教師や友達とのやり取りの中で学習が成立するということです。もう一つは、子どもが学習内容を理解する過程で、自分自身を振り返り、自分を再確認し、自分を変えていく作業を行っていることです。つまり、子どもは授業の中で、自己を変革しているのです。

このように授業は、子どもの成長・発達に大きな役割を果たしています。併せて、教師も子どもの成長の意味を自分との関わりの中で考えることになるので、教師としての在り方や生き方、教える力量を省察することができるのです。

授業には、子どもと教師を大きく成長させる働きがあります。授業の基本的な事柄を何度も確認しながら、授業づくりの努力を続けていきましょう。そうすれば、必ず魅力ある授業として結実させることができます。もちろん、授業は子どもが主体です。「のんき、こんき、げんき」を口ずさみながら、魅力ある授業をつくっていきましょう。

この冊子は、特別支援学校の授業づくりの基本的な事柄をまとめたものです。全ての障害種、教育課程の内容に対応するよう心掛けて構成しました。校内研修や学年、学級で授業づくりを深めるときに、資料として活用してください。

なお、「授業づくりシートⅠ・Ⅱ」、「授業反省会の方法」等は、本センターのホームページ「特別支援学校の魅力ある授業づくり」に掲載しています。本冊子と併せてご覧ください。

２０１２年3月

あすなろ

静岡県総合教育センター授業づくり支援課特別支援班